



## 平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年2月13日

上場会社名 ラサ工業株式会社  
 コード番号 4022 URL <http://www.rasa.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 庄司 宇秀  
 (氏名) 永戸 正規

TEL 03-3278-3892

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成27年3月期第3四半期の連結業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	16,232	5.0	867	32.4	711	60.9	682	66.7
26年3月期第3四半期	15,466	6.7	655	8.4	442	21.1	409	10.0

(注) 包括利益 27年3月期第3四半期 713百万円 (46.0%) 26年3月期第3四半期 488百万円 (110.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	8.61	—
26年3月期第3四半期	5.17	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第3四半期	31,887	8,494	26.3	105.97
26年3月期	30,769	7,778	25.0	96.85

(参考) 自己資本 27年3月期第3四半期 8,402百万円 26年3月期 7,679百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	—	—	0.00	0.00
27年3月期	—	—	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成27年3月期の連結業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,500	5.3	1,000	4.1	600	5.8	500	18.8	6.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年3月期3Q	79,442,038 株	26年3月期	79,442,038 株
27年3月期3Q	150,228 株	26年3月期	146,759 株
27年3月期3Q	79,293,779 株	26年3月期3Q	79,299,136 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記予想に関する事項は、[添付資料]P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安基調が続いたことに加え、公共投資が底堅く推移したことなどから、景気は緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、円安を主因とした原材料高による企業収益の圧迫や、世界経済に於ける新興国の減速の顕在化など、依然、景気の先行きは、楽観を許さない状況が続いております。

このような環境のなかで、中期経営計画の最終年度を迎え、引続き「安定した収益力」と「財務健全化の達成」の基本方針を継続し、業績の向上に努めて参りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高は162億32百万円（前年同期比5.0%増）、営業利益8億67百万円（前年同期比32.4%増）、経常利益7億11百万円（前年同期比60.9%増）、四半期純利益は6億82百万円（前年同期比66.7%増）となりました。

当社グループのセグメント別の概況は、次のとおりであります。

#### ①化成品事業

燐酸などの燐系製品につきましては、一般品および二次塩類等の出荷量が、微増となったことに加え、価格改定が寄与し増収となりました。また、電子工業向け高純度品は、半導体向けの需要拡大により、国内外共に販売数量を伸ばし大幅な増収となりました。

水処理用などの凝集剤は、上下水道向けが堅調に推移したことに加え、民間向けも伸び、商品の価格改定も加わり増収となりました。コンデンサー向け原料、消臭剤は、減収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は、110億44百万円（前年同期比7.9%増）、セグメント利益（営業利益）は、7億7百万円（前年同期比51.2%増）となりました。

#### ②機械事業

破砕関連機械につきましては、特殊スクリーンの販売が伸張したことに加えて、海外向け出荷が寄与し、本体販売は増収となりました。部品販売は震災復興需要の一巡と、消費税増税前の駆け込み需要の反動から、減収となりました。プラントは増収、鋳鋼品は減収となりました。

下水道関連の掘進機は、海外向け本体販売が堅調に推移し、増収となりましたが、レンタル物件は、関連工事量の減少により減収となりました。

精密機械加工は、新規顧客開拓が功を奏し増収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は、31億40百万円（前年同期比1.0%増）、セグメント利益（営業利益）は、2億2百万円（前年同期比28.9%減）となりました。

#### ③電子材料事業

ガリウムは、販売数量、販売価格共に落ち込み減収となりました。インジウムにつきましては通信デバイス向け需要が好調に推移したことから増収となりました。また、赤燐・酸化ホウ素は、減収となりました。

この結果、当セグメントの売上高は、12億1百万円（前年同期比3.3%減）、セグメント利益（営業利益）は、棚卸資産の評価額の戻し入れ益があり、1億75百万円（前年同期比49.0%増）となりました。

#### ④その他

石油精製用触媒の再生事業は、減収となりました。不動産の賃貸は、前年並みで推移しました。

この結果、当セグメントの売上高は、8億46百万円（前年同期比3.9%減）、セグメント利益（営業利益）は、5億4百万円（前年同期比4.9%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における資産につきましては、流動資産が前連結会計年度末に比べて13億60百万円増加し、162億25百万円となりました。この主な内訳は、たな卸資産が6億85百万円増加、現金及び預金が3億62百万円増加、受取手形及び売掛金が2億16百万円増加したことなどによるものであります。固定資産は前連結会計年度末に比べて2億42百万円減少し、156億61百万円となりました。この主な内訳は、有形固定資産が3億33百万円減少した一方、投資その他の資産が80百万円増加したことなどによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債につきましては、主として支払手形及び買掛金が5億84百万円増加、その他流動負債が3億94百万円増加した一方、長短合わせた借入金が4億29百万円減少、賞与引当金が64百万円減少したことなどによって、前連結会計年度末に比べて4億2百万円増加し233億92百万円となりました。

当第3四半期連結会計期間末における純資産につきましては、四半期純利益6億82百万円を計上したことなどによって、前連結会計年度末に比べ7億15百万円増加し84億94百万円となりました。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における資産合計は318億87百万円となり、自己資本比率は26.3%となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、国内経済は、消費税増税延期に加え、経済対策、金融政策を背景に、内需を中心に底堅く推移するものと思われま。一方で世界経済は、米国経済の回復は続くものの、欧州、中国・新興国経済の減速は鮮明になっており、また、地政学リスクも依然予断を許さないものがあります。このため、金融市場のボラティリティが高まっており、経済の先行きには強い不透明感を内包しております。

このような見通しの中、化成品事業は、半導体向け高純度燐酸の販売は引き続き好調が続くものと見込んでおりますが、円安が進んだことによる原料価格の上昇などから、今後の損益は計画より下振れすると予想しております。機械事業は、下水道関連の掘進機が海外向け受注を順調に積上げてきましたが、納入予定は3月に集中していることから、一部の売上計上が翌期に繰り越す可能性があります。電子材料事業は、依然商品市況の底打ちが見られず、損益は厳しいものになると見込んでおります。

また、当社の業績は今後も為替など金融市場の変動により少なからぬ影響を受ける可能性があります。

このような見通しを踏まえると、当社の事業環境の先行きには多くの不透明要素を内包しております。

このため、第3四半期累計期間までの進捗は計画を上回って推移しているものの、業績予想につきましては見直しを行っておりません。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法についても、従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債及び利益剰余金に与える影響、また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はそれぞれ軽微であります。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,473	4,835
受取手形及び売掛金	6,854	7,071
商品及び製品	1,333	1,680
仕掛品	871	1,126
原材料及び貯蔵品	853	937
その他	497	598
貸倒引当金	△19	△24
流動資産合計	14,865	16,225
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,405	5,192
機械装置及び運搬具(純額)	1,847	1,703
工具、器具及び備品(純額)	322	403
土地	5,155	5,148
リース資産(純額)	35	29
建設仮勘定	192	148
有形固定資産合計	12,959	12,625
無形固定資産		
借地権	919	919
その他	31	42
無形固定資産合計	951	961
投資その他の資産		
投資有価証券	1,278	1,230
その他	762	857
貸倒引当金	△47	△13
投資その他の資産合計	1,993	2,073
固定資産合計	15,903	15,661
資産合計	30,769	31,887

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,401	3,986
短期借入金	10,444	9,473
未払法人税等	60	19
賞与引当金	166	102
その他	1,448	1,843
流動負債合計	15,523	15,425
固定負債		
長期借入金	4,506	5,047
退職給付に係る負債	2,378	2,377
その他	582	542
固定負債合計	7,467	7,966
負債合計	22,990	23,392
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,443	8,443
利益剰余金	△406	279
自己株式	△35	△36
株主資本合計	8,000	8,686
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△49	△107
繰延ヘッジ損益	△1	△0
為替換算調整勘定	84	9
退職給付に係る調整累計額	△354	△186
その他の包括利益累計額合計	△321	△284
少数株主持分	98	92
純資産合計	7,778	8,494
負債純資産合計	30,769	31,887

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
売上高	15,466	16,232
売上原価	11,827	12,338
売上総利益	3,639	3,894
販売費及び一般管理費	2,984	3,027
営業利益	655	867
営業外収益		
受取配当金	15	22
受取地代家賃	30	36
為替差益	122	167
違約金収入	58	—
その他	78	49
営業外収益合計	304	276
営業外費用		
支払利息	259	218
休止鉱山鉱害対策費用	69	83
その他	188	130
営業外費用合計	517	431
経常利益	442	711
特別利益		
固定資産売却益	—	47
特別利益合計	—	47
特別損失		
減損損失	—	2
特別損失合計	—	2
税金等調整前四半期純利益	442	756
法人税、住民税及び事業税	57	51
法人税等調整額	△10	11
法人税等合計	46	63
少数株主損益調整前四半期純利益	395	693
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△14	11
四半期純利益	409	682



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	395	693
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	56	△57
繰延ヘッジ損益	0	1
為替換算調整勘定	35	△92
退職給付に係る調整額	—	168
その他の包括利益合計	93	19
四半期包括利益	488	713
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	495	720
少数株主に係る四半期包括利益	△7	△6

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	化成品 事業	機械事業	電子材料 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	10,231	3,110	1,243	14,585	881	15,466	—	15,466
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10	—	9	20	25	45	△45	—
計	10,242	3,110	1,252	14,605	906	15,512	△45	15,466
セグメント利益	467	284	117	870	530	1,400	△745	655

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、石油精製用触媒再生及び不動産の賃貸等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△745百万円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△744百万円などが含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	化成品 事業	機械事業	電子材料 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	11,044	3,140	1,201	15,386	846	16,232	—	16,232
セグメント間の内部売上高 又は振替高	8	—	0	8	31	40	△40	—
計	11,052	3,140	1,202	15,394	878	16,273	△40	16,232
セグメント利益	707	202	175	1,085	504	1,590	△723	867

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、石油精製用触媒再生及び不動産の賃貸等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△723百万円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用△722百万円などが含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。